

茨城県立歴史館の学校教育支援事業（出前講座）テーマ一覧〈令和6年度版〉

当館では小・中学校および高等学校を対象にした学習支援事業（出前講座）を実施しています。講座のテーマおよび具体的な内容は下表のとおりです。社会科の授業はもちろん、総合的な学習の時間などにおいても、ぜひ積極的にご活用ください。

※ 特別展開催前後は受け入れが難しい場合がございます。

	タイトル・テーマ名	具体的な内容	担当者
1	勾玉づくり体験	縄文時代から作られていた勾玉についての解説と、ろう石を使った勾玉づくりを体験します。 ※材料費（1個 400円）がかかります。	教育普及課
2	粋な紋切りあそび —日本の心が見える紋 紋の文化と粋について—	紙を折って型どおりに切り抜くときれいな紋が出来上がる、江戸時代からの粋なあそび「紋切りあそび」。実際に体験しながら、紋の文化を学びます。	教育普及課
3	ちょっと昔のくらし	昔使われていた道具の説明と体験ができます。 小学3年生の授業に最適です。 リモート対応可能 ※2か月前までの受付、要事前打ち合わせあり	教育普及課
4	反射炉ってなんだろう？	近代的な製鉄業は茨城からはじまりました。その原点となった反射炉についてお話しします。 ※6月25日(火)より受付	資料調査 専門員 飛田 英世
5	水戸藩、異国文化との出会い そして行動	水戸藩で受け入れて活動した儒学者朱舜水や禅僧東臯心越の筆跡、そして幕末の徳川昭武の行動を紹介します。	首席研究員 藤 和博
6	「学校日誌」にみる 戦争と小学校	出征軍人の見送り、防空訓練、傷病兵への洗濯奉仕、兵隊映画の見学、遺家族慰問学芸会……等々、県内の小学校に残された「学校日誌」からは、戦時体制下で子どもたちや先生、地域の人々がどのような生活を送っていたかが具体的にわかります。 身近な地域から戦争について学ぶ講座です。	首席研究員 長谷川 良子
7	異国船の衝撃 —幕末動乱への序曲—	江戸時代後期、那珂湊や大津浜などに異国船が現れるようになると、水戸藩では欧米諸国の圧力に対する危機感が高まり、攘夷思想が進展していきました。幕末動乱の引き金ともなった、これらの事件について分かりやすく解説します。	学芸課長 由波 俊幸
8	古文書とくずし字	古文書とはどんなものか、くずし字はどう読むのか、あいいうえおの成り立ちから学びます。	主任学芸員 武子 裕美

9	常陸の戦国大名佐竹氏	教科書などではあまり目にしない戦国大名佐竹氏について、分かりやすく解説します。	主任研究員 山縣 創明
10	古文書から歴史をさぐる	江戸時代の検地帳や人別帳等を使って古文書を読むおもしろさに触れるとともに、歴史への興味の導入とします。	歴史資料課長 笹目 礼子
11	資料から分かる近現代の茨城	資料を用いて近現代（明治から平成まで）の茨城の歴史を分かりやすく説明します。 ※6月25日(火)より受付	資料調査 専門員 富田 任

【活用の方法について】

① お申し込み

上表のテーマ一覧から希望の講座を選んでいただき、教育普及課までご連絡ください。その後、実施に向けての詳しい打ち合わせを行います。

なお、お申し込みは、実施日の1か月前までをお願いします。

② 経費

無料です。講師派遣の費用（謝礼、交通費等）は必要ありません。

③ その他

講座担当者の展示作業、調査などのため、希望日の調整ができない場合があります。

問い合わせ先

茨城県立歴史館 管理部教育普及課

〒310-0034 水戸市緑町 2-1-15

電話 029-225-4425 FAX 029-228-4277

E-mail: daihyou@rekishikan.museum.ibk.ed.jp